

消防団のQ&A

Q 消防団とは何ですか？

A 消防団は、消防本部・消防署と同様に市町村の消防機関です。「自らの地域は自らで守る」という精神に基づき、普段は様々な仕事に就いている住民が非常勤特別職の地方公務員として災害などに対応します。



Q 女性ならではの活動はありますか？

A 現在、全国で約25,000人の女性消防団員が既に活躍しています。消火活動や後方支援などの活動もありますが、住宅用の火災警報器の普及促進や一人暮らしの高齢者宅の防火訪問、地域の防災教育や応急手当の普及指導で、特に活躍されています。

消防団協力事業所表示制度

事業所が消防団に協力することは、地域への多大な社会貢献となります。本制度は、消防団の活動に積極的に協力している事業所を「消防団協力事業所」として認定するものです。これらの事業所が増えることにより、地域防災体制の一層の充実が期待できます。



「消防団協力事業所表示制度」表示マーク

機能別消防団員・分団制度

より多くの方に参加いただくために、消防団には、機能別消防団員・分団という制度があります。それぞれの能力やメリットを活かしながら、特定の消防団活動や時間の許す範囲での活動ができます。

機能別団員 ● 火災予防・広報団員 ● OB団員

機能別分団 ● 大規模災害のみ活動する分団
● バイク隊 ● 音楽隊

消防団の主な待遇は？

多くの市町村で年額報酬(数万円程度)や災害活動または訓練に出動した際の出勤手当(1回あたり数千円程度)などが支給されます。また、以下のような待遇もあります。

公務災害補償 消防団活動中に負傷した場合の補償制度があります。	被服の貸与 消防団活動に必要な被服が貸与されます。
退職報償金 一定期間以上勤務して退団した際には、退職報償金が支給されます。	表彰制度 職務にあたって功労、功績があった場合には、表彰されます。

※上記制度内容および消防団員募集の手続きなどについては、各市町村ごとに定められていますので、居住地(または勤務地)の市役所・町村役場、または最寄りの消防署にお問い合わせください。

[お問い合わせ先]

Q 働きながらも参加できますか？

A 消防団員は通常、各自の仕事に就きながら、災害時の活動、平時の訓練、防火啓発活動などに従事しています。

Q 地震などの災害時にはどのような活動をするのですか？

A 大規模地震が発生した際、一人でも多くの人を助けられるよう、避難誘導や救出救護に当たります。また、避難所での避難者を支援する大きな力として期待されています。

Q 待遇などはどうなっていますか？

A 市町村から数万円程度の年額報酬や出勤手当(概ね1回数千円程度)などが支給されます。また、一定期間以上勤務して退団した際の退職報償金支給、被服の貸与、公務災害補償などがあります。

入団するには

消防団に入団するには、まずはお問い合わせください。

1 探す

ホームページ上の消防団一覧から、お近くの消防団を探します。

2 問い合わせる

入りたい消防団の連絡先を調べ、電話・メールなどでお問い合わせください。

3 あなたも消防団員に！

お問い合わせ先の案内に従い、入団手続きが完了すれば、晴れて「入団」となります。

お近くの消防団を探してみよう！

あなたの街の消防団 検索

<http://www.fdma.go.jp/syobodan/search/>



ワインの買い付け後に
いってきます
街を守りに

あなたの想いが、この街を守るエネルギーになる。
消防団員募集

SYOBODAN



ソムリエと
消防団を両立！

[ソムリエ] 小口 めぐみさん
横浜市保土ヶ谷消防団第二分団

あなたの想いが、 この街を守るエネルギーになる。

》消防団 3つのポイント

ポイント
1

家庭や仕事と両立しながら
地域に貢献できる！

一般的に女性消防団員は、家事や育児、仕事をしながら、活動にも参加。多くの団員が「両立」を実現しています。

ポイント
2

参加いただきやすい
さまざまな制度がある！

大規模災害のみ活動をする分団、火災予防のために活動をする団員など、特定の役割を選択して、参加も可能です。

ポイント
3

男性・女性・学生問わず
活躍の場がある！

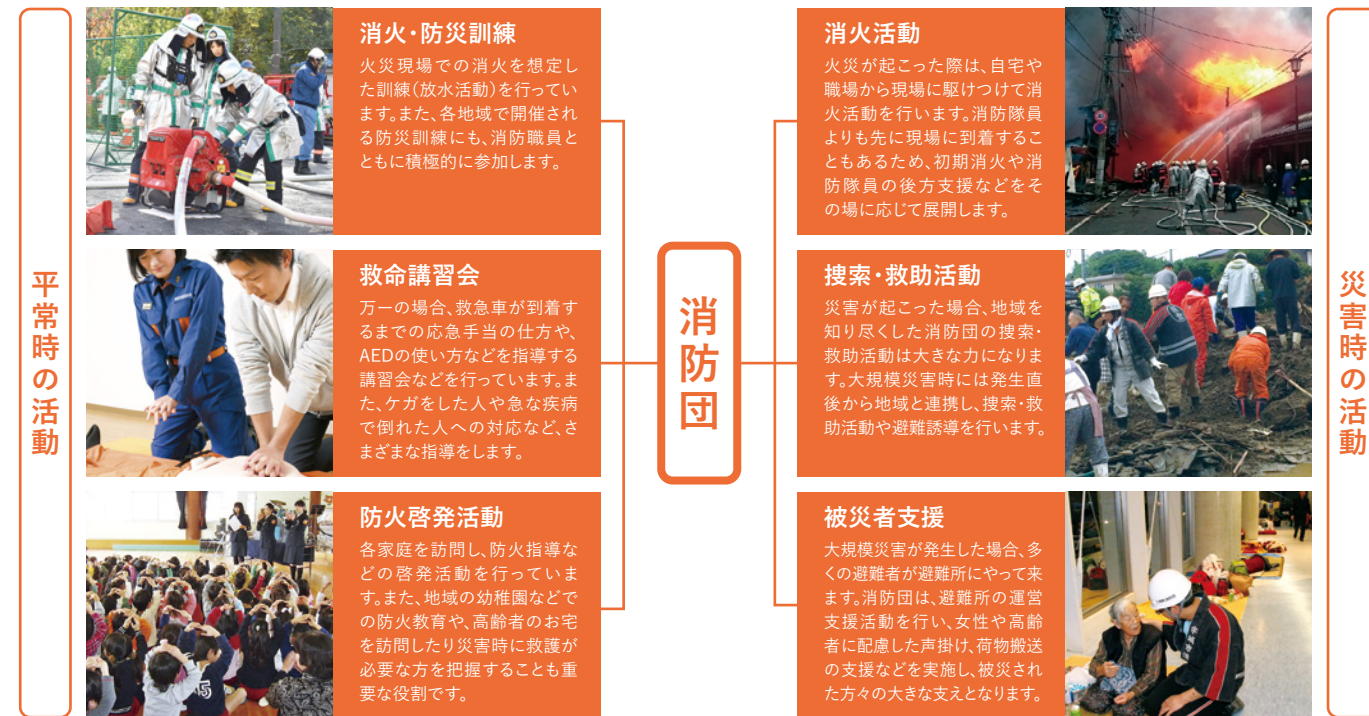
消火活動だけでなく、防火啓発活動や救命講習会など、それぞれの能力や技術を活かして活動できます。

》入団方法や制度の詳細は、リーフレット裏面をご覧ください

消防団の活動

火災はいつ発生するかわかりません。また、応急手当はいつ必要になるかわかりません。だから、そのためのいろいろな準備をみんなできる限り行っています。

消防団は、消防組織法に基づき、全国の各市町村に設置される消防機関です。消防団員は、それぞれ自分の仕事をもちながら地域防災の担い手として、地域に密着して活動し、住民の安全と安心を守るという重要な役割をもっています。また近年は、女性や学生の消防団員が増加していて、火災予防や応急手当の普及啓発などにおいても活躍しています。



消防団は新しい自分に出会える場所。 できる範囲で、無理なく続けられます。

[ソムリエ] 小口 めぐみさん 横浜市保土ヶ谷消防団第二分団

子どものころ、友達のお父さんが消防団員として活躍する姿を見て、あこがれていました。入団前は男性が多いイメージでしたが、実際に入団してみると幅広い世代の女性が在籍しており、いろいろと勉強させてもらっています。もともとママ友だった方も入団し、いっしょにがんばっています。仕事も家庭も両立されている方が多く、困った時にも相談できるので心強いですね。

活動は基本自由参加。私自身、平日は夫の営むレストランでソムリエとして働いていますので、参加するのは主に日曜です。各団員が「できる範囲で活動に参加する」のが当たり前になっているので、時間的にも精神的にも負担なく、楽しく続けることができます。

大きなやりがいを感じたのは、防災訓練の運営に当たった際に地域の方から「ありがとう」

の言葉がもらえたとき。消防団の活動を通じて、地域の皆さまの交流の輪が広がると嬉しく思います。

子どももまだ小さく、いつもサポートしてくれている家族には本当に感謝しています。消防団での次の目標は、救命講習の指導員資格を得ること。母として、ソムリエとして、団員として。どんな私も輝いていると感じます。今後も愛する街のため、成長し続けたいです。



地域への恩を、消防団で返したい。

[会社員] 大場 康平さん 広島市安佐北消防団口田分団

消防団の任務は消火活動に関わることをイメージしていたのですが、祭など地域の行事で交通整理や警備をすることも仕事だと知り、入団を決意しました。私を育ててくれた街の子どもたちの、安全と思い出を守る力になりたいと思ったのです。現在は、「できることを、できると

きに」という姿勢で、仕事もプライベートも大切にしながら無理なく取り組んでいます。普段は広島市森林組合で、樹木の整備や森の測量に携わる仕事に従事。仕事では森を守り、消防団では街を守る。街への恩を返すつもりで、これからもがんばります。



地域のために、自分にもできることがある。

[大学生] 大谷 真代さん 京都市伏見消防団砂川分団

入団する前、消防団の活動は毎日訓練を行う大変なものだと思っていました。実際は、防災を呼びかけながら地域を巡回する夜回りが基本的な活動。力が必要となる場面はなく、私でもできるんだ、とイメージが変わりました。もちろん、学校やアルバイトとの両立も可能。消防

団の活動を負担に感じたことはありません。ほかの団員の方や地域の方との交流もあり、楽しく続けられています。少しでも興味があったり、人助けをしたりしたい方なら、大きなやりがいを感じられるはず。地域の平和のために、一緒にがんばりましょう。

